

女子ラグビーの花岡さん(大館市出身)

「リオ五輪に代表を」

チーム創設、HCで指導

ウオッシュ チンソグ



ヘッドコーチとして女子チームの指導に当たる花岡さん(中央)。右は上田さん=横浜市保土ヶ谷区

東京
ふりーばす

クターに、東芝府中やヤマハ発動機ラグビー部などで監督を務めた大館市出身の花岡伸明さん(52)＝東京都府中市＝が就任した。

ゼネラルマネジャー兼監督に就いた元慶応大ラグビー部監督の上田昭夫さん(58)が就任を要請。ラグビー指導者として名高い同士の二人三脚で女子代表選

手の育成を目指す。花岡さん

は「女子リーグはないの

で、ここを拠点に日本の女

子ラグビーを強化し、全体

の底上げに貢献したい。リ

オ五輪へ代表選手をたくさ

ん送り出す」と意気込んで

いる。

環境で練習に打ち込むことができる。

「もっと速く」「低く低

く」。練習場所となってい

る横浜市のJ2・横浜FC

のグラウンドに花岡さんの

大きな声が響く。現在のメ

ンバーは法人内で募ったソ

フトボール経験者を中心と

した6人。ラグビー経験者

は、昨年のアジア大会日本

代表の横山里菜子選手(東

海大出)だけだ。

「みんな運動能力は高い

が、ラグビーに必要な体を

つくり、動きを身に付ける

練習が必要」と花岡さん。

指導陣も選手に交じり、一

緒に汗を流しながら指導に

当たっている。

企業チームや日本ユース

代表など指導経験は豊富な

花岡さんだが、女子の指導

は初めて。「試行錯誤だが、

初心者を一から育てる楽し

さがある」。来年は日本代

表選手2人が加わるほか、

他競技からのスカウトにも

力を入れる。「秋田からも

ぜひ選手を起用したい」と

言う。

秋田わか杉国体では、秋

田ノーザンブレッツ(NB)

を母体とするオール秋田の

アドバイザーも務めた。秋

田のラグビーを盛り上げた

いと常に思っている。秋田

NBの女子とも交流を図っ

ていきたい」(小川頭)

2016年のリオデジャ

ネイロ五輪から正式種目に

採用される7人制ラグビー

女子。横浜市の医療法人柏

堤会が今月、女子7人制チ

ーム「TKM7」(戸塚共

立メディカルセブンスラグ

ビークラブ)を創設し、ヘ

ッドコーチ兼チームディレ

別冊付録 W杯フルA観戦ガイド/G・"ジャッカル"スミスきたる/第1回全国高校女子7人制大会全選手名鑑

ラグビーマガジン

Rugby

magazine

10

OCT. 2011
No. 488

ワールドカップ まもなく開幕
待ってるNZ

REPORT◆イタリア戦、アメリカ戦
ANALYSIS◆イタリア強化合宿
JAPAN INTERVIEW◆菊谷崇【主将・FL】、ホラニ龍コリニアシ【NO8】
SO TALK◆ジェームス・アレジ、ウェブ科武、マリー・ウィリアムス
PREVIEW◆世界各国W杯直前情報

別冊付録
RWC2011フルA完全観戦ガイド

大学ラグビーSPECIAL◆関東大学対抗戦4強主将座談会
森田佳寿【帝京】×山下昂大【早稲田】×仲宗根健太【慶應】×溝口裕哉【明治】

別冊付録 1000円
特別定価 1000円
ラグビーマガジン
http://www.rugby-japan.com

女子ラグビーチーム誕生 戸塚公立メデイカルセブンスラグビークラブ設立。 本気の人に、最高の環境を。

女子ラグビーチーム誕生

文 三川島優子

8月2日、日本協会で行われた記者会見で、戸塚公立メデイカルセブンスラグビークラブ（TKM7）の設立が発表された。

TKM7は、1都4県に25の病院と6つの介護老人保健施設のほか、クリニック、健診センター、訪問看護ステーションなどを展開している戸塚中央医療グループによって設立された。クラブオーナーは戸塚中央医療グループ副会長の横川秀男氏が務める。

グループ内でも、戸塚中央総合病院には、日本女子ソフトボールリーグ2部に所属する女子ソフトボール部や、漕艇部にはオリンピック選手も所属するなど運動部の活躍が目覚ましい。ラグビークラブ設立の経緯について、横川氏は「ソフト部の活躍など、運動部の実績はありました。神奈川県で日体大などの女子選手ががんばっていることを知り、7人制が五輪種目になるのに合わせて上田さんに相談し、スタートを切った。やるからには、強いチームにしたい」と語った。

上田昭夫氏を監督に迎え、現在TKM7の練習には10名弱の選手が練習に励んでいる。全員が戸塚中央医療グループで働く職員で、正式に入部しているのは昨年3月に東海大を卒業した横川里奈子のみ。他の練習生は、ラグビーに興味を持った職員で、まだ正式な部員ではないが、今後面接や練習を重ねて正式部員を決定する。

サッカーJ2横浜FCのメデイカ

ルサポートを行っている縁で、横浜FCのグラウンドで練習を行う。また食事のサポートや、職場である病院とグラウンドの近くに専用の寮を建設中など、環境は整っている。

「ラグビーだけでなく、仕事も申しかりできる社会人になってほしい。ラグビーを引退しても、仕事が続けられるよう、キャリア支援もしていきたい」（横川氏）。

ヘッドコーチには花岡伸明氏が就任し、来年には現在日体大4年の鈴木育美の入部も決まっている。

「2016リオ五輪までに、一人でも多くの選手を送り込みたい。試合経験を増やすために、新大会の創設も考えている」（上田監督）。

昨年にはラグール7も設立され、今年7月には高校生女子7人制大会が新設されるなど、女子がラグビーを始めやすい環境が整ってきた。これを追い風に、ますます強化が進むことを期待したい。



(左から)花岡伸明ヘッドコーチ、横川秀男オーナー、佐藤副務、江村秘書、上田監督